

サステナビリティ

サステナブル調達

特に貢献を目指すSDG s



2018年度活動報告

人権・環境に配慮した主原料調達

重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／パーム油／カ
カオ／大豆／シアナッツ

詳しく見る



サステナビリティ

人権・環境に配慮した主原料調達

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ パーム油
- ④ カカオ
- ④ 大豆
- ④ シアナッツ

考え方

不二製油グループの基幹原料であるパームやカカオなどの農作物は、生産現場（農園）での環境・人権問題が社会的に懸念されています。また、製品供給の責任を果たすためにも、持続可能な方法で生産された、高品質で安全な原材料の安定的調達が重要だと考えます。当社グループは社会的存在として、環境的・社会的・経済的に持続可能な調達活動を推進します。

目標

不二製油グループのパーム油サプライチェーンにおけるNo Deforestation, No Peat, No Exploitation(森林破壊ゼロ、泥炭地*開発ゼロ、搾取ゼロ)の実現。

2020年までに、搾油工場までのトレサビリティ（Traceable To Mill）100%を実現。

*泥炭地：地中に炭素を大量に固定している土地のこと。泥炭地の開発によって、大量の温室効果ガスが大気中に排出される。

進捗

パーム油の持続可能な調達に関しては、2018年5月に、「責任あるパーム油調達方針」に基づいてグリーンバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）を公表し、運用を開始しました。併せて、サプライチェーンの透明性を確保しグリーンバンスメカニズムを効果的に運用するために、2018年6月に「サプライチェーン上の搾油工場リスト」を公表しました。

2019年3月には、「責任あるパーム油調達方針」の進捗状況をステークホルダーの皆様に対して簡潔かつタイムリーにお知らせするためのWEBページとして、「Dash Board」を作成・公表しまし

た。2018年度下期の、搾油工場までのトレーサビリティは99%でした。

また、カカオの持続可能な調達を推進するために、2018年8月に「責任あるカカオ豆調達方針」を策定し公表いたしました。この方針に基づく活動として、エクアドルでのカカオ農家支援を開始しました。

今後は、パーム油については、受け付けたグリーンパスへの対応やサプライチェーン改善の検証、カカオについては農家支援の拡大、大豆に関しては考え方を整理することから始め、サプライチェーン上の人権・環境リスクの低減・是正を進めていきます。

DashboardはこちらのURLよりご覧ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/en/csr/supplychain_database/

推進の仕組み

推進体制

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を設置し、ESG委員会の中で、サステナブル調達を含めたESGに係る重要事項を定期的に審議し、取締役会に提言・具申しています。

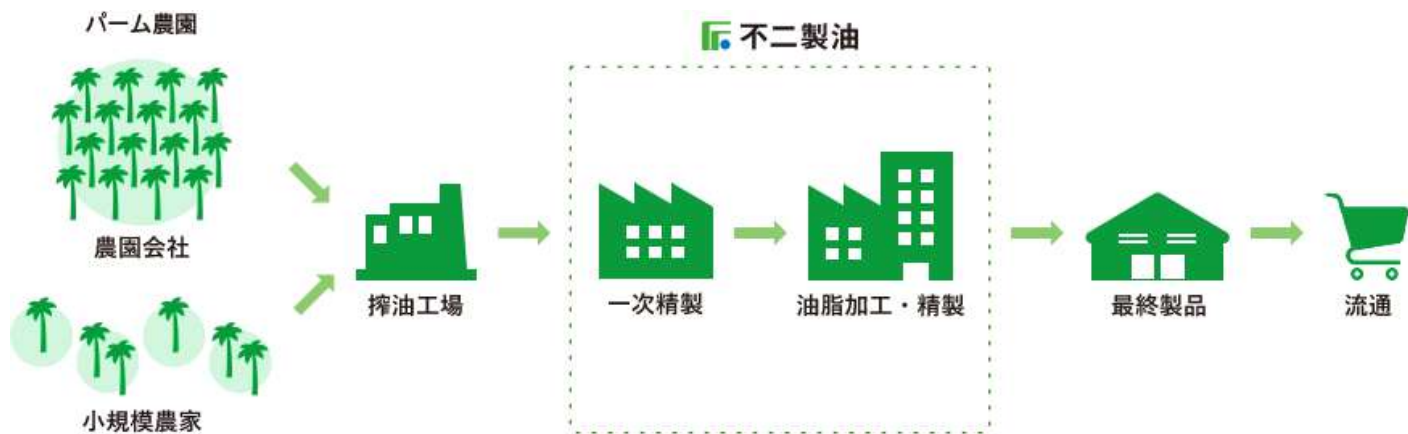
そして、CSO（Chief Strategy Officer）を最高責任者として、グループ全体の主原料のサステナブル調達の取り組みを推進しています。

従業員へのインセンティブ

事業活動を通じて社会に貢献する優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年以降、表彰制度「経営賞」において「CSRの部」を設けています。

パーム油

パーム油のサプライチェーンと不二製油グループの位置づけ



考え方

パーム油と不二製油グループ

パーム油は、東南アジアなどの熱帯地域に植生するアブラヤシから取れる油です。ほかの植物性油脂と比べて加工しやすく単位面積あたりの収穫量が大きいため、食品から化学品まで幅広く使われており、世界の植物性油脂原料の中で最大の生産量となりました。しかし、市場規模が拡大する一方で、パーム農園がある地域において、農園開発に起因する環境問題や児童労働・強制労働などの人権問題が危惧されています。

不二製油グループは、基幹原料の一つとしてパーム油の可能性を追求し続け、新しい食文化を切り拓いてきました。パーム油の持続可能な調達を目指すことは社会的責任であると考えています。

責任あるパーム油調達方針

2016年3月、不二製油グループとして「責任あるパーム油調達方針」（以下、本方針）を策定し、公表しました。本方針では、人々と地球環境を尊重するサプライヤーから責任ある方法で生産されたパーム油を調達することを約束しています。当社グループは、ステークホルダーと協働して調達方針に即した調達に努めています。今後も、パーム油が持続可能な油脂原料として世界に受け入れられるよう、責任あるパーム油調達を推進していきます。

▶ 責任あるパーム油調達方針PDF(1.54MB) 

具体的な取り組み

方針実現のための取り組み全体像

取り組み	狙い
1.トレーサビリティの向上	サプライチェーンの把握

取り組み	狙い
2.サプライチェーン改善活動	サプライヤーとの協業によりサプライチェーン上のリスクを低減
3.グリーンバンスメカニズム	サプライチェーン上の問題の早期発見・改善
4.RSPO認証油の供給	サステナブルな方法で生産されたパーム油の普及
5.UNIFUJI	サステナブルなパーム油の供給力強化
6.学術機関・業界との連携	ステークホルダーとのコラボレーションによる人権・環境問題の効果的改善

1.トレーサビリティの向上によるサプライチェーン把握

サプライチェーンを改善するためには、不二製油グループが購入・使用するパーム油について、どの地域で生産されたものなのかを特定する必要があると考えています。2020年までに、搾油工場までの完全なトレーサビリティ*を実現することを第1段階の目標とし、NPOのEarthworm Foundation（旧名称：The Forest Trust）およびサプライヤーとの協働で、トレーサビリティの向上に取り組んでいます。

地域の商流の特性上トレーサビリティが困難であった中国のグループ会社において、サプライヤーに対するエンゲージメントやサプライチェーンの見直しを行った結果、2018年下期、当社グループ全体の搾油工場までのトレーサビリティは99%に向上しました。

*トレーサビリティ：食品の安全確保のため、生産履歴や流通経路を明らか（トレーサブル）にすること。その仕組み。

2.サプライチェーン改善活動

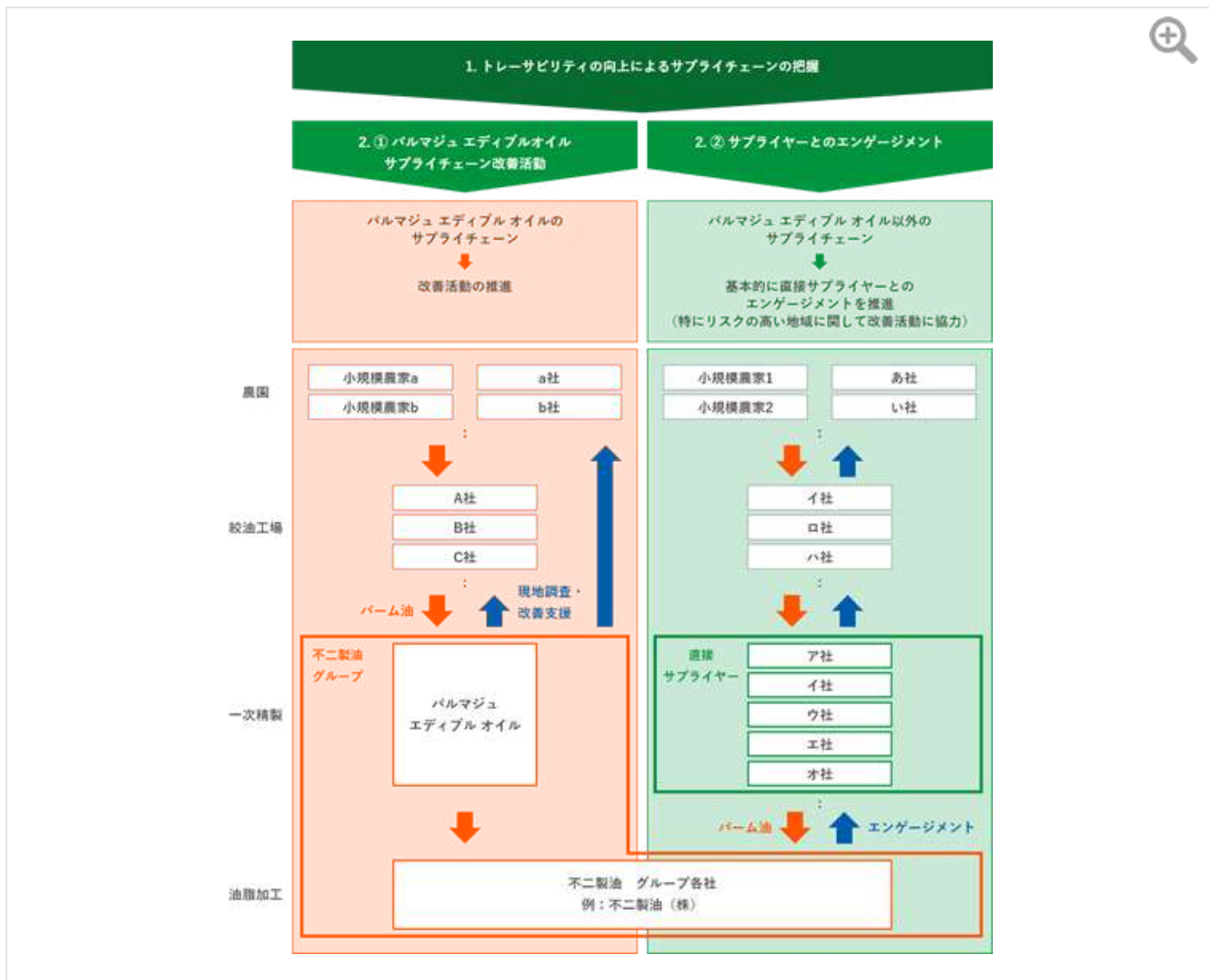
調達方針に基づき、パーム油生産現場（農園）での環境・人権問題を解決するために、サプライチェーン改善活動を実施しています。

①不二製油グループの中で、サプライチェーン上でパーム油生産現場により近い位置にある一次精製会社「パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）」については、搾油工場と連携したサプライチェーン改善活動を展開しています。

②パルマジュ エディブル オイル以外のサプライチェーンについては、基本的には直接サプライヤーとのエンゲージメント（積極的働きかけ）を推進することで、サプライチェーン改善を図ります。一部のサプライチェーンについては、改善活動をサプライヤーと協働で開始しています。2018年度より、インドネシアにおいては環境リスクの高い農園地域を対象とした改善活動を開始し、マレーシアでは移民労働者の権利を守るためのフォーラム（Ethical Recruitment Forum*）への参画を開始しました。

*Ethical Recruitment Forum：NPOのEarthwormが主催する、マレーシアのパーム油産業における労働者およびコミュニティへの搾取ゼロを目指すプロジェクト。人権デュー・ディリジェンスツールの開発などを行っている。

サプライチェーン改善活動の全体像



① パルマジュ エディブル オイル（マレーシア） サプライチェーン改善活動

2016年10月より、不二製油グループのパルマジュ エディブル オイル（マレーシア）において、サプライチェーン改善活動を開始しました。初めに、同社のサプライヤー（搾油工場）に対して当社グループの調達方針を共有しました。その後、同社のサプライヤーのうち1社と、その搾油工場に関連するディーラーや農園の現地視察を行い、調達方針との適合性を評価し、課題の改善・是正を支援しました。支援の結果、2017年12月には、パルマジュ エディブル オイルのサプライヤーである搾油工場や農園で働く200名以上の移民労働者にパスポートが返却され、300名の移民労働者が彼らの理解できる言語で雇用契約書を締結することができました。

パルマジュ社のすべての直接サプライヤーに対し、当社グループの考え方をお伝えするセミナーを2回開催し、セルフアセスメントツールおよび課題改善ノウハウの提供を行っています。2018年度は、7軒の搾油工場からセルフアセスメントツールの回答をいただき、リスクを把握することができました。2019年度は、この結果に基づき、サプライヤーとともに具体的な改善活動を行うことで、さらにサプライチェーンの改善を進めるとともに、衛星写真を利用した森林保全状況の確認を行う予定です。

* 改善活動の実績を動画にまとめています。下記URLをご参照ください。

▶ <https://www.youtube.com/watch?v=sUWBgu07Tp8&feature=youtu.be> 

② サプライヤーとのエンゲージメント

不二製油グループのパーム油サプライチェーン全体を改善するためには、当社グループと直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントが肝要だと考えています。エンゲージメントでは、当社グループの調達方針についてご理解いただくとともに、サプライチェーン上のリスクや、問題が発生した際のグリーンバンスメカニズムの連携について協議しています。

2018年度は、当社グループのすべてのパーム油直接サプライヤー（精製会社22社）からセルフアセスメントの回答を得て、NDPE方針（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）の実現のための各サプライヤーにおける進捗を把握することができました。今後も継続して、直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントを行い、リスク低減のための働きかけ・協業を進めていきます。また、リスクが高いサプライチェーンについては、直接取引のあるサプライヤーと共同して、改善活動を行っています。2019年3月末時点で、インドネシアの「APTランドスケープイニシアチブ」とマレーシアの「小規模農家支援」の2つの改善活動に、サプライヤーとともに参画しています。

③ Landscape Approach

搾油工場までのトレースを行った結果、インドネシアのスマトラ島のサプライチェーンにおいて、環境・生態系の観点から重要なエリアが森林破壊のリスクにさらされていることがわかりました。このリスクを低減・是正するために、当社グループは2018年度より「APT（Areal Prioritas Transformasi）ランドスケープイニシアチブ」に参画しています。

「APTランドスケープイニシアチブ」は、農園開発の脅威にさらされている、インドネシアの貴重な熱帯雨林の3地域（アチェ・タミアン・南アチェ・東リアウ）を対象に、地元政府・NGO・企業・農園等のマルチステークホルダーが連携して活動を展開しています。これらの地域についてはパーム農園に限らず、NGOやコミュニティ・政府などのマルチステークホルダーが参画し、地域ごと改善を図る手法（ランドスケープアプローチ）を用いて、以下の主要な目標に向かって取り組みを進めています。

- 計画のリーダーとしての地元政府の関与
- パーム油農園区域内での森林破壊停止の条件整備
- 小規模農家に代替の生計手段を提供し、コミュニティ単位で保全を強化することによる、パーム農園区域外でのパーム農園開発による森林破壊の予防
- 搾油工場および農園による、NDPE方針促進のための現状の取り組み強化

2018年度はマルチステークホルダーワークショップの開催、地元政府とのエンゲージメント、土地利用状況のアセスメントなどを行いました。

④ マレーシア・ボルネオ島での小規模農家支援活動

パーム農園における環境・人権問題の要因の一つとして、小規模農家による生産性の低い農園運営が指摘されています。小規模農家が環境的・社会的・経済的に持続可能な農園運営のノウハウを得

られるよう、不二製油グループは2016年1月、サプライヤーとWild Asia（NGO）による小規模農家支援プロジェクト（WAGS：Wild Asia Group Scheme）に参画しました。本プロジェクトでは、当社グループのサプライチェーンの一部の小規模農家における生産性向上と労働環境改善を目指し、4年間の教育支援を行います。

2018年度には、支援先の農家32軒が新たにRSPO認証を取得しました。2016年1月に当社グループがWAGSに参画して以降、累計で191軒の農家がRSPO認証を取得するとともに、17,041トンのRSPO認証パーム油が生産されています。

小規模農家によるRSPO認証の取得は、小規模農家が人権・環境に配慮したパーム油生産を行えるようになったことを意味しています。また、農薬の適切な使用方法の教育を通じて、小規模農家からは「使用する農薬量が減少し、コストカットにつながった」とコメントを得ています。2019年度も現地との対話を重視し、支援を継続していきます。

3. グリーバンス（苦情処理）メカニズム

「責任あるパーム油調達方針」を実現する目的で、2018年5月にグリーバンスメカニズムを構築・公表しました。このグリーバンスメカニズムは、ステークホルダーから不二製油グループに提起されたサプライチェーン上の環境・人権問題について、「責任あるパーム油調達方針」に基づいて直接サプライヤーとのエンゲージメントを行い問題の改善を促す仕組みです。透明性を持ってグリーバンスに対応するため、当社グループウェブサイト「不二製油グループ グリーバンスWEBページ（英語）」を設置しています。本ウェブサイトにおいて、少なくとも四半期に一度進捗状況を更新し、ステークホルダーの皆様への情報開示に努めています。

グリーバンスWEBページは以下のURLをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/

4. RSPO* 認証油の取り扱い

パーム油の持続可能な生産・消費体系を構築する趣旨に賛同し、不二製油グループは2004年より、RSPOに加盟し、認証油の取り扱いを進めてきました。

RSPO認証油の需要は欧州・米国を中心に高まっており、2018年、当社グループの認証油取扱量は約12万トンで、これは、当社グループのパーム油取扱総量の約17%です。認証油の要望に対応するため、グループ間のサプライチェーン改善、事業所のサプライチェーン認証取得などに積極的に取り組んでいます。

* RSPO：Round Table on Sustainable Palm Oilの略。持続可能なパーム油のための円卓会議。

当社グループ取り組みの進捗状況を下記URLでチェックしてください。

▶ <https://www.rspo.org/> 



5.UNIFUJI（ユニフジ）の設立

持続可能なパーム油調達を推進し、顧客や消費者に責任ある製品供給を果たすことは、不二製油グループの事業戦略上でも重要なテーマとして位置づけています。ユニフジは、持続可能なパーム油に対して志を共にするパートナーであるUNITED PLANTATIONS社との合併会社です。合併先のUNITED PLANTATIONS社は、世界で初めてRSPO認証油の生産を行った実績を持ち、農園労働者の人権や環境に配慮した持続可能な農園運営が行われています。2018年度に工場の稼働を開始したユニフジでは、UNITED PLANTATIONS社の農園から、高品質かつ持続可能なパーム油を確保し、当社グループの強みである分別技術をもとに、高付加価値のパーム油製品を生産・販売しています。ユニフジの工場は、UNITED PLANTATIONS社の農園内に位置し、バイオマスと排水からのエネルギーを利用しています。

6.学術機関・政府・業界との協働

① 育種研究による生産性向上

パーム油の消費量が世界的に拡大する一方、アブラヤシの栽培に適した地域は非常に限られていることから、アブラヤシの品種改良によって生産性と品質を高め、単位面積当たりの収穫率を向上させていくことが求められています。不二製油グループでは、世界最大のパーム油生産国であるインドネシアの研究機関、インドネシア技術評価応用庁（Badan Pengkajian dan Penerapan Teknologi：BPPT）と「パームの生産性の向上および高品質化に向けた共同研究」を2011年より実施しています。これまで、アブラヤシの優良苗の生産や品種改良につながる組織培養技術の大幅な改良に成功するなど、インドネシアでのパーム研究の発展に寄与しています。今後も、パーム油産業の発展に貢献していくとともに、パーム農園の拡大に伴う熱帯雨林の減少などの地球環境問題の改善を図り、持続可能なパーム油生産に貢献していきたいと考えています。



育種研究が進められているBPPTバイオテクノロジー研究所



パームの組織培養の様子

② The Consumer Goods Forum Japan Sustainability Local Group パーム油ワーキンググループ

不二製油グループは、消費財の国際的な業界団体であるThe Consumer Goods Forum（TCGF）のJapan Sustainability Local Groupの一つである「パーム油ワーキンググループ」に、2017年度の設立当初から参画しています。「パーム油ワーキンググループ」には、最終製品メーカーや小売・卸売企業などさまざまな業態のメンバーが参画し、日本社会において持続可能なパーム油調達を実現する目的で、情報収集および協議を行っています。

③ 持続可能なパーム油会議（Japan Sustainable Palm Oil Conference）

2018年11月、日本社会として持続可能なパーム油調達を考えるためのイベント「持続可能なパーム油会議（Japan Sustainable Palm Oil Conference）」について、趣旨に賛同し協賛しました。

トピックス「子どもたちへの教育・啓発」

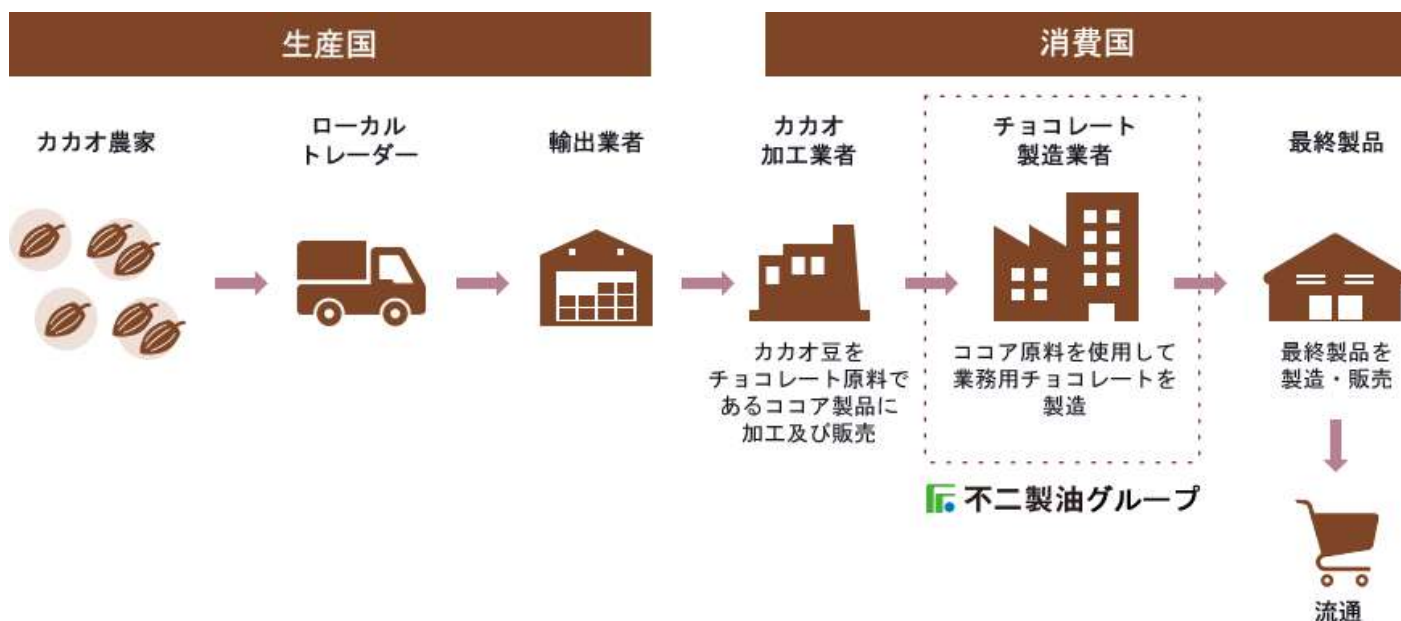
サステナブル調達を推進するためには、消費者・市場に対する働きかけが重要なテーマの一つとなります。当社は、次代を担う学生への教育が重要であると考え、NPOのThink the Earthによる、「SDGs for school」の出前授業に賛同し、その授業で使用するチョコレートの協賛を通して、学生に持続可能なパーム油、ひいては持続可能な社会について考えていただく機会の提供に努めています。

本件に関する詳細は「社会貢献活動」ページをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/csr/management/management_04/

カカオ

カカオのサプライチェーンと不二製油グループの位置づけ



考え方

チョコレートの需要は世界的に一層高まっていますが、その原料であるカカオは、農家の離農や高齢化、カカオツリーの老齢化、気候変動による生産地への影響、知識や資材不足による生産効率の低さといった供給面の問題から、将来的な需給のひっ迫が懸念されています。さらに、小規模農家が大半を占めるカカオ農家の貧困や児童労働、森林破壊、土壌汚染など、複雑に絡み合った人権および環境面での問題が指摘されています。

業務用チョコレート事業は、不二製油グループのコアコンピタンスの一角であり、ココアリカー*・ココアバター**・ココアパウダー***等のカカオ由来原料は当社グループにとって基幹原料の一つです。当社グループが将来にわたり、持続可能なカカオを使用した製品を通じて食の喜びを届け続けるため、2018年8月に「不二製油グループ 責任あるカカオ豆調達方針」を策定いたしました。本方針に基づいて、持続可能なカカオ原料の調達活動を行うことを目指しています。

* ココアリカー：チョコレート・ココアの製造工場の用語で、カカオ豆から外皮を取り除いて磨砕して出来るペースト状のもの。

** ココアバター：カカオ豆を搾油して得られる植物油脂。

*** ココアパウダー：カカオ豆からココアバターを搾油した後のものを粉砕し粉状にしたもの。

▶ 責任あるカカオ豆調達方針PDF (166KB) 

具体的な取り組み

エクアドルでの小規模農家支援活動

責任あるカカオ豆調達方針に基づき、2018年12月より、エクアドルでの小規模カカオ農家支援活動を当社グループの直接サプライヤーとともに開始いたしました。農業支援を通して、生産性の向上・カカオ豆の品質向上・農家およびコミュニティの生活水準の向上を目指します。現在、支援プログラムでは68農家に対して、当社の直接サプライヤーが農園管理方法や土壌管理、収穫後のプロセス（発酵作業など）に関するトレーニングを行っています。カカオ豆は土壌管理・生産および収穫後のプロセスが品質を大きく左右する原料です。農業支援プログラムを通して、単収の向上による農家の収入向上が期待されます。また、現地にて風味研究を行うことで、カカオ豆の品質改善を図っていきます。



土壌やカカオに負荷の低いオーガニックな虫除けスプレーをつくるための技術指導の様子

ガーナでの支援活動

カカオ豆の主要原産国の一つに、アフリカのガーナがあります。不二製油（株）は、2014年以降、カカオ豆購入代金の一部を利用し、ガーナのサプライチェーン上のコミュニティ支援を行っています。これまでに、支援先コミュニティにおいて、「井戸の建設（2014年）」および「収穫率の改善のための研究（2016年～）」を行ってきました。



農業指導の様子

収穫率向上のための研究として、2016年から2018年にかけて、モデル農園を選定し、異なる条件で育成したカカオの収穫量を研究してきました。研究によって、モデル農園の収穫量は、2017年10-12月は前年同時期と比較し、18%の増加となりました。2018年2月からは、モデル農園近隣エリアのカカオ農家を対象とした、農業指導の実施を継続しています。「農園の管理方法」、「農薬の管理方法」、「カカオの収穫および収穫後の管理方法」に加えて、「新しく農園を始める際の土地の選定基準」や「農園のリハビリテーション」についての指導を実施しています。また、収穫量向上のみならず、カカオ豆の品質を向上させるためのノウハウや、ガーナ豆の風味を引き出す発酵方法を農家に伝えています。

今後も、カカオ豆の持続可能な生産・消費体系構築を目指し、生産者の支援を継続していきます。

世界カカオ財団（WCF）への参画

不二製油グループは2012年より、世界カカオ財団へ加盟しています。世界カカオ財団は、農家が栄え、カカオ生産者コミュニティが活力を持ち、人権が尊重され、環境が保全されるようなカカオ産業の持続可能な繁栄を目指している、メンバー制の国際的なNPOです。

世界カカオ財団の3原則



WCFサステナビリティ3原則

- 利益** 農家のための公正かつ十分な経済的利益
- 人** 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
- 地球** 信頼できる確かな環境に対する責務

認証カカオ原料の取り扱い

Fair Trade



フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）では、開発途上国の原料や製品を購入することを目指すフェアトレード認証を取得しています。お客様のご要望に応じて、フェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。

UTZ



不二製油（株）関東工場、フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）、ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）、フレイアバディ インドタマ（インドネシア）では、持続可能な農業のための国際的な認証プログラムである「UTZ認証」を継続的に取得しており、今後もお客様のご要望に対応していきます。

大豆

考え方

大豆は、冷帯から熱帯まで幅広い地帯で栽培される植物ですが、大豆の生産地では、農園開拓による森林破壊や、農薬散布による農園地域の土壌汚染などが懸念されています。不二製油グループは、大豆が将来の世界の食糧危機を救うと信じ、1957年以降、他社に先駆けて食品素材としての大豆の可能性を追求してきました。当社の大豆加工素材事業においては、脱脂大豆や丸大豆、大豆たん白などの大豆由来の原料を使用しています。大豆加工素材事業を通してサステナブルな社会に貢献するために、調達活動においても地球環境と社会への配慮に努めます。

具体的な取り組み

不二製油グループが調達する大豆の産地

当社グループの大豆加工素材事業では、北米産、中国産、日本産の大豆原料のみを調達しています。

非遺伝子大豆の調達

不二製油グループでは非遺伝子組み換え大豆のみを調達しています。北米では、遺伝子組み換え大豆*と非遺伝子組み換え大豆がともに多く流通しているため、北米産大豆に関しては栽培、輸送および保管において厳しい分別管理を行っています。

大豆の主要な調達先である中国では、遺伝子組み換え大豆の栽培は禁止されていますが、近年は搾油原料として海外産の遺伝子組み換え大豆が中国に輸入されており、年々、非遺伝子組み換えを厳格に分別管理することの重要性が増してきています。中国産大豆の調達についてもグループで連携し、不二製油（株）で得た管理ノウハウを取り入れ、厳しい管理要求に継続的に対応しています。

* 遺伝子組み換え大豆：安定的に大豆を収穫するために除草剤耐性などの機能を、遺伝子を組み換えることで付与した大豆。

ステークホルダーの期待の把握

2018年度、環境に関する評価機関であるCDPのフォレスト質問書において「大豆」に関して初めての回答を行いました。回答を通して、「大豆調達に関する方針の策定と公表」や「サプライチェーンの森林破壊リスクの管理」など、ステークホルダーが大豆のサステナビリティの文脈で企業に期待することを把握することができました。

2019年度は、サプライヤーや顧客・有識者との対話を通して、ステークホルダーの期待を深堀し、大豆調達に関する考え方や取り組みを検討していきます。

シアナッツ*

考え方

チョコレートやチョコレート利用食品の多様化する需要に応えるため、ココアバター代用脂（CBE：Cocoa Butter Equivalent）も多様化しています。優れたココアバター代用脂づくりに不可欠な原料の一つに、アフリカ原産のシアバターがあります。近年は化粧品利用などでも知名度が高くなっていますが、食用への利用も古くから行われています。シアバターを生み出すシアナッツは、自然に植生します。植生地域においては神聖な木とされ、主に女性が収穫を行います。コミュニティにとって、雇用の創出および女性のエンパワメントの観点から重要な産業として位置付けられています。

不二製油グループは、主に植物性油脂事業においてシアナッツを使用しており、事業活動を通してシアナッツ生産地域が経済・社会・環境の観点から持続可能な発展をすることに寄与したいと考えています。当社グループのインターナショナル オイルズアンド ファッツ（ガーナ）は、シアバターの分別工程を自社で行うことにより、現地（ガーナ）で製品の付加価値を上げ、現地経済や雇用機会の創出に貢献しています。

*シアナッツ：シアバターの木の種子のことで、主な生産地はナイジェリア、マリ、ブルキナファソ、ガーナなど。シアナッツから製造されるシアバターは食品、化粧品や石鹸に使用される。

具体的な取り組み

Global Shea Alliance（GSA）への参画

シアナッツ産業においては、約1,600万人が従事するといわれる西アフリカ女性たちによる収穫作業なくしては持続が困難です。ジェンダー平等の実現、生活レベルの確保、収穫時の労働安全の確保が重要になります。また環境面では、現地の人々の生活燃料確保のため、樹木伐採問題なども指摘されつつあります。これらの課題は1社のみで解決できることではなく、シアナッツサプライチェーンのステークホルダーによって構成されるGlobal Shea Alliance（GSA）で議論がなされています。2019年3月、ガーナのアクラで行われた総会には不二製油グループとして参加するなど、GSAを通じたステークホルダーとのネットワーキングおよび情報収集を進めています。



シアバターの木

UNDPプロジェクトへの参画

（ガーナでのシア栽培を通じた地域復興・女性の地位向上・環境保護の推進）

不二製油グループ本社およびフジオイル ヨーロッパ（ベルギー）は、国連開発計画（UNDP）が主催する「Ghana Shea Landscape REDD++Project」への参画を検討しています。本プロジェクトでは、シアナッツ産業がコミュニティの活性化および女性の地位向上を推進し、環境に対する負の影響を低減することを目指して、就業機会の創出や植林活動、コミュニティ形成支援など、多角的な活動を行う予定です。

サステナビリティ

環境

特に貢献を目指すSDGs



2018年度活動報告

環境マネジメント

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／マネジメント認証の取得／監査／環境に関する重大な違反および措置／外部からの評価

【データ】

- 環境負荷の全体像（INPUT／OUTPUT）
- 環境監査（内部監査／外部審査）の実績
- 環境会計

詳しく見る



CO₂の排出削減 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗

【データ】

温室効果ガス排出量

- エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移
- Scope-1、2エネルギー使用量（CO₂排出量）
- CO₂排出係数の出典

エネルギー消費量

- エネルギー使用量（原油換算）と原単位推移
- 燃料消費量
- 総電力消費量

詳しく見る



水使用量の削減 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／具体的な取り組み

【データ】

- 年間給水量と原単位推移
- 年間排水量と原単位推移
- 不二製油（株）阪南事業所における水再生利用量

詳しく見る



廃棄物の削減 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／食品リサイクルの取り組み

【データ】

- 国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率
- 海外グループ廃棄物総排出量と原単位

詳しく見る



包装材の削減

コンテンツ

包装時の環境負荷低減に向けた取り組み

詳しく見る



生物多様性

コンテンツ

事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響／
生物多様性に関する取り組み

詳しく見る



サステナビリティ

環境マネジメント

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ マネジメント認証の取得
- ④ 監査
- ④ 環境に関する重大な違反および措置
- ④ 外部からの評価
- ④ データ

考え方

近年、地球温暖化等の気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与え始めています。このような状況の中、不二製油グループは地球上で活動を行う社会の一員として、国連のSDGsで提唱される「持続可能な社会」に賛同し、経済的価値を創出するだけでなく、地球環境に配慮した事業活動に取り組むことが必要であると考えています。当社グループは食品製造業である性質上、事業プロセスにおけるCO2排出や水使用・廃棄物といった領域において環境に影響を及ぼし得ることを認識し、以下4項目から成る「環境基本方針」を定めています。

環境基本方針

1. 環境保全活動の継続的な改善に努める。
2. 環境関連の法およびその精神を順守する。
3. 環境に配慮した製品開発・技術開発に努める。
4. 社会とのコミュニケーションに努める。

目標

新環境ビジョン2030の策定

近年、気候変動・地球温暖化問題に関連するパリ協定や、SDGsに代表される体系的な考え方が整備されてきています。国際社会における環境保全活動への取り組みは加速しており、当社グループとしても、社会の一員として国際社会の目指すパリ協定の実現に貢献したいと考えます。その為、2010年に掲げた「環境ビジョン2020」の進捗状況と設定目標の妥当性を考慮分析の上、2030年を目標とした新たなビジョン「環境ビジョン2030」を2018年度に策定しました。今後は、「環境ビジ

「環境ビジョン2020」に代わり更に高い水準での環境への貢献を目指す目標として、「環境ビジョン2030」の達成に向け環境保全活動を推進していきます。

旧目標：不二製油グループ環境ビジョン2020

国内グループ		
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量	2020年20%低減（基準年＊対比）
水資源の保全	給排水量	2020年20%低減（基準年＊対比）
資源リサイクル	再資源化率2020年99.8%以上	
地球緑化、生物多様性への積極的取り組み		

* 基準年：2003～2005年平均値（東京都方式）

海外グループ			
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量	2020年20%低減（基準年*対比）	

* 基準年：2006年

新目標：環境ビジョン2030

① CO ₂ 排出量の削減・・・2030年に総量で24%減（基準年：2016年）
② 水使用量の削減・・・2030年に原単位で20%減（基準年：2016年）
③ 廃棄物量の削減・・・2030年に原単位で10%減（基準年：2016年）
④ 資源リサイクル・・・再資源化率99.8%以上

* ①～③は不二製油グループ全体、④は日本に適用

進捗

国内グループ

	目標	2018年の実績	達成率

	目標	2018年の実績	達成率
CO ₂ 排出量の削減（グループ全体）	2030年に総量で24%削減（基準年*対比）	14.1%削減	59%
水使用量の削減（グループ全体）	2030年に原単位で20%削減（基準年*対比）	14.1%削減	71%
廃棄物量の削減（グループ全体）	2030年に原単位で10%削減（基準年*対比）	1%増加	0%
資源リサイクル（国内）	2030年まで再資源化率99.8%以上を維持	99.33%	未達成

* 基準年：2016年

推進の仕組み

グループ環境マネジメント体制

不二製油グループでは、グループ憲法において「安全と品質、環境」を全従業員が行動する上で持つべき価値観として表明し、そのもとで「環境基本方針」を定め、事業活動における実行と環境への意識向上活動をグループ全体で推進しています。

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的に開催しています。ESG委員会の中で、環境を含めたESGに係る重要事項を審議し、取締役会に提言・具申しています。

そして、2018年度は最高品質責任者（CQO）を環境分野の最高責任者として、グループ全体の取り組みを推進しました。

各グループ会社において毎年の環境目標・KPIを設定して活動を進め、不二製油グループ本社の生産性推進グループが、各社における推進を専門的知見から支援しています。

教育・啓発活動

安全・品質・環境に関する専門知識をもつ戦略立案組織として、不二製油グループ本社 生産性推進グループを設置しています。生産性推進グループが定期的にグループ会社を訪問し、安全・品質・環境に関する教育や啓蒙活動を実施しています。

また、海外グループ会社の経営層に対しては、テレビ会議を活用して環境ビジョン2030等の理解浸透活動を行っています。

従業員へのインセンティブ

事業活動を通じて社会に貢献する優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年度以降、表彰制度「経営賞」の中に「安全品質環境の部」を設けています。年1回、グループ会社の中から優秀な結果を残した会社および部門を表彰しています。

マネジメント認証の取得

ISO14001認証の取得

不二製油グループでは、法令の順守や環境保全活動を推進することによる社会的信頼向上のために、環境マネジメントの国際規格であるISO14001：2015年版の認証を取得しています。

生産拠点を有する国内連結会社8社中、国内の最大生産量を担う不二製油（株）をはじめ、3社で取得しています。これら3社の生産量の国内グループ生産量に占める割合は約96%です。製造拠点を有する海外連結子会社は15社中7社で取得しています。

最新のISO14001取得状況は下記ウェブサイトをご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso14001/>

監査

環境監査

ISO14001に基づく「外部審査」に加えて、グループ各社の生産管理向上を目的として、安全・品質・環境の「内部監査」を実施しています。

2018年度は、国内グループ会社66部署が「外部審査」および「内部監査」を受審しました。ともに不適合は指摘されませんでした。また、海外では6社において「内部監査」を実施しました。

内部監査では、環境規程および環境関連法規制に基づく活動状況の確認にとどまらず、なぜそれが重要なのかを説明しながら進めています。監査を通じてグループ各社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言することにより、環境保全活動の推進、改善・向上を図っています。

環境に関する重大な違反および措置

2018年度は、不二製油グループにおいて環境分野に関する重大な違反はありませんでした。

外部からの評価

- CDPの気候変動質問書2018においてBリストの評価を得ました。
- CDP森林質問書2018において、日本で初めてAリスト入りを果たしました。

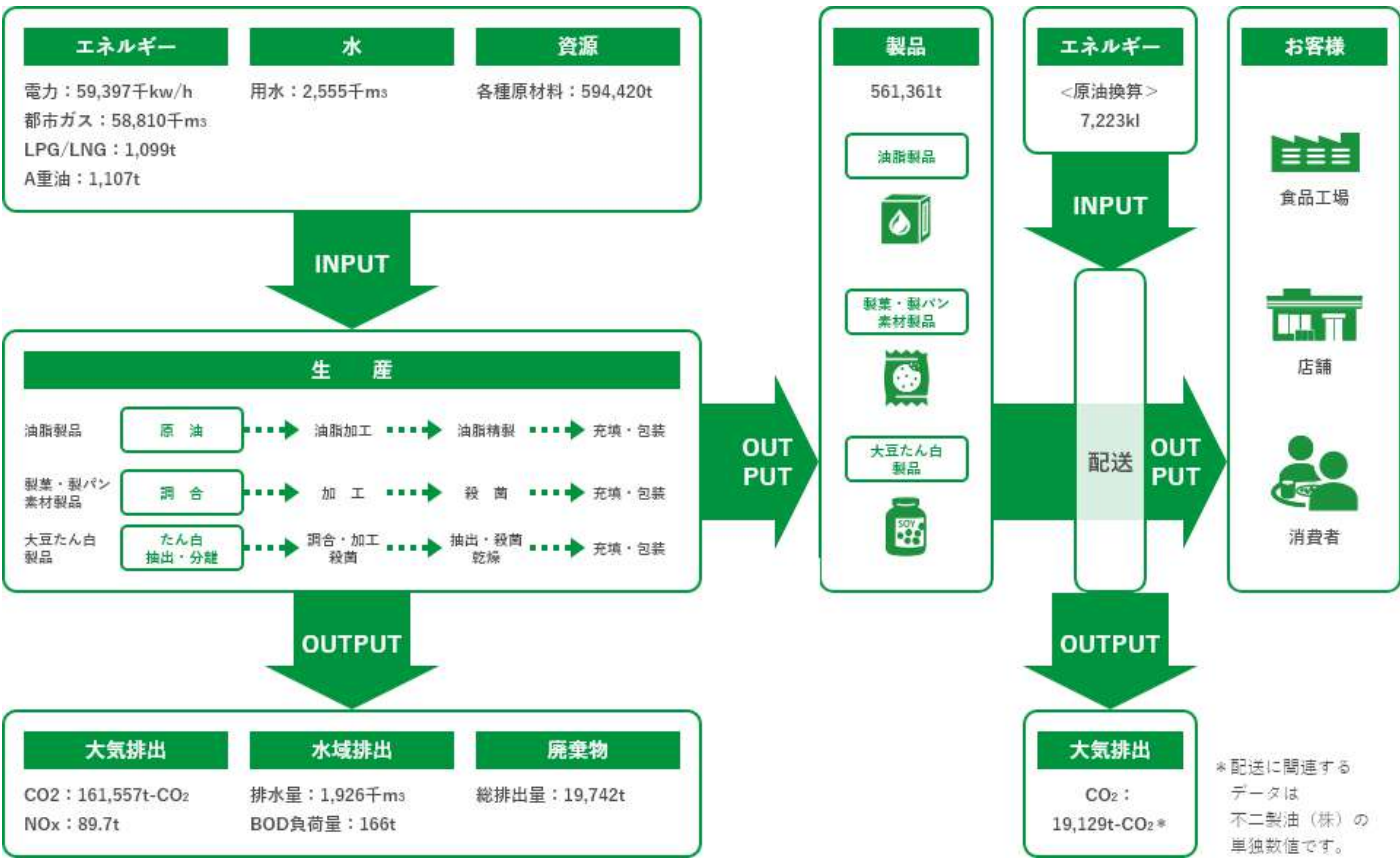
- DBJ（日本政策投資銀行）環境融資において、最高評価を得ました。
- 工場・事業所における省エネ定期報告書において、4年連続で最高ランクである省エネ優良事業者（Sクラス）の評価を得ました。

データ

環境負荷の全体像（INPUT／OUTPUT）

不二製油グループでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を低減するため、原材料の調達から生産、物流における資材・エネルギーの投入量（INPUT）、廃棄物等の排出量（OUTPUT）を把握し、分析しています。

国内グループ会社の事業活動に伴う環境負荷の全体像（2018年度）



環境監査（内部環境監査、外部審査）の実績（国内グループ）

（単位：部署）

		内部環境監査	外部審査
2014年度	不適合	0	0
	観察事項	79	6

		内部環境監査	外部審査
2015年度	不適合	0	0
	観察事項	67	6
2016年度	不適合	0	0
	観察事項	54	8
2017年度	不適合	0	0
	観察事項	26	5
2018年度	不適合	0	0
	観察事項	59	7

* 2017年度は阪南事業所やつくばにある研究所をそれぞれ1つとして監査、合計56部署で監査を行いました。2018年度は、さらに詳細に監査を行うため、研究所の各課毎に監査を行ったことで、合計66部署に増加しました。

環境会計

環境会計は、環境省「環境会計ガイドライン2005年度版」に準拠して、環境保全に要したコストとその効果を集計しました。

集計対象

不二製油株式会社（単独）

対象期間

2018年4月～2019年3月

算定方法

投資額：投資目的の50%以上が環境保全であるものは、全額環境投資とみなしました。

減価償却費：投資目的の50%以上が環境保全であるものを過去6年間にさかのぼり、一律10年間の定率償却としました。

直接把握が可能な費用については、原則として全額を集計しました。直接把握が困難な費用については、実態に即した比率で按分計算し、集計しました。

環境保全対策に伴う経済効果については、把握可能な効果のみを集計しました。

環境保全コスト

（単位：百万円）

分類	主な取り組み事例	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
		環境投資額	費用額	環境投資額	費用額	環境投資額	費用額	環境投資額	費用額	環境投資額	費用額
エリア内コスト		108	991	360	908	401	1,202	846	1,313	1,095	1,187
内訳	(1) 公害防止コスト	36.6	353	67	351	67	407	352	420	167	461
	(2) 地球環境保全コスト	54.2	326	271	223	287	374	486	486	913	434
	(3) 資源循環コスト	16.9	312	22	334	47	422	8	407	15	292
上・下流コスト	段ボールレス化設備の導入、グリーン購入費差など	118	35	1	27	0	3	0	3	0	1
管理活動コスト	ISO14001マネジメントシステムの構築、維持、社員教育、環境報告書作成費など	—	248	0	238	0	236	0	236	0	252
研究開発コスト	資源の高度利用研究など	—	142	0	139	0	142	0	130	0	146
社会活動コスト	工場周辺清掃活動、環境保全などを行う団体への支援など	—	4.07	0	3.65	0	3.51	0	3.51	0	4.26
環境損害対応コスト	汚染負荷量賦課金	—	8.13	0	7.27	0	5.93	0	5.93	0	6.73
合計		226	1,429	361	1,323	401	1,593	846	1,691	1,095	1,597

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
-----------	-------------	----	--------	--------	--------	--------	--------

環境保全効果 の分類	環境パフォーマンス 指標	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	エネルギー使用量原単位	L/t	158.7	153.4	149.1	152	148
	給水量	千m ³	2,759	2,845	2,859	2,713	2,555
	給水量原単位	m ³ /t	5.16	5.16	4.90	4.83	4.46
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量原単位	kg- CO ₂ /t	309	300	291	299	282
	排水量	千m ³	1,993.00	2,073.00	2,069.00	1,969.00	1,925.66
	排水量原単位	m ³ /t	3.73	3.60	3.54	3.51	3.36
	廃棄物排出量	/t	18,456	18,439	19,850	18,529	19,742
	廃棄物排出量原単位	kg/t	21.7	12.4	17.0	33.0	34.5
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	廃棄物再資源化率	%	99.96	99.97	99.94	99.96	99.33

* エネルギーの換算係数など、集計方法の見直しにより、前年報告値と異なっているところがあります。

環境保全対策に伴う経済効果

(単位：百万円)

環境保全効果の分類	効果の内容	金額				
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
収益	廃棄物再資源化による有価物の売却益 (おから、廃油、廃段ボール売却)	18	20	21	14	30
費用節減	廃棄物の削減によるコストダウン	173	176	156	164	158
合計		191	196	177	177	188

サステナビリティ

CO₂の排出削減

CONTENTS LIST

[📄 考え方](#) [📄 目標](#) [📄 進捗](#) [📄 データ](#)

考え方

パリ協定の発効以降、気候変動・地球温暖化問題への取り組みの重要性が更に認識されています。食品製造業である当社グループは、工場の操業等のプロセスにおいてエネルギーを使用することから、CO₂を排出しています。社会の一員としてパリ協定の達成に貢献するための積極的な取り組みを進めることで、気候変動の緩和・地球温暖化の防止に貢献します。当社グループが環境ビジョン2030で掲げるCO₂削減の目標は、SBT（Science Based Target）の考え方に沿って策定しました。今後は、SBT認定の取得も視野にしています。生産現場での省エネ活動を引き続き行うことはもとより、エネルギー使用量の少ない新設備の導入や再生可能エネルギーの使用により、CO₂排出量の削減を推進していきます。

目標

2030年に総量で24％削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループのCO₂排出量

目標	実績	達成率
2030年に総量で24％削減	14.1％削減	59%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループ会社のCO₂排出量は161,557t-CO₂となり、前年度比96.4%と減少しました。海外グループ会社のCO₂排出量は277,097t-CO₂となり、前年度比91.3%と減少しました。主な要因は以下となります。

- 不二製油株式会社（日本）の堺工場を閉鎖、また、石川工場を譲渡しました。
- 不二製油株式会社（日本）にて、一部の冷凍機を省エネタイプに更新しました。
- 不二製油株式会社（日本）にて、油脂の生産設備の一部を効率の良い設備に更新しました。
- 吉林不二蛋白有限公司（中国）の譲渡に伴い、2018年8月に生産活動を終了しました。
- 山東龍藤不二食品有限公司（中国）にて、空調設備見直しによる熱効率化、フライヤー設備の断熱強化、蒸気配管の集約等を行いました。
- 不二製油（張家港）有限公司（中国）にて、エアコンプレッサーの統合を行いました。
- 2018年7月より稼動を開始した不二製油（肇慶）有限公司（中国）では、太陽光による温水作成設備を設置しました

不二製油（肇慶）有限公司の太陽光による温水設備



トピックス「CDPへの参画」

不二製油グループでは、気候変動への対応に関する情報開示の重要性を認識し、2016年度より、CDP「気候変動」質問書への回答を行っています。

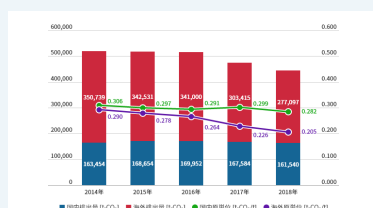
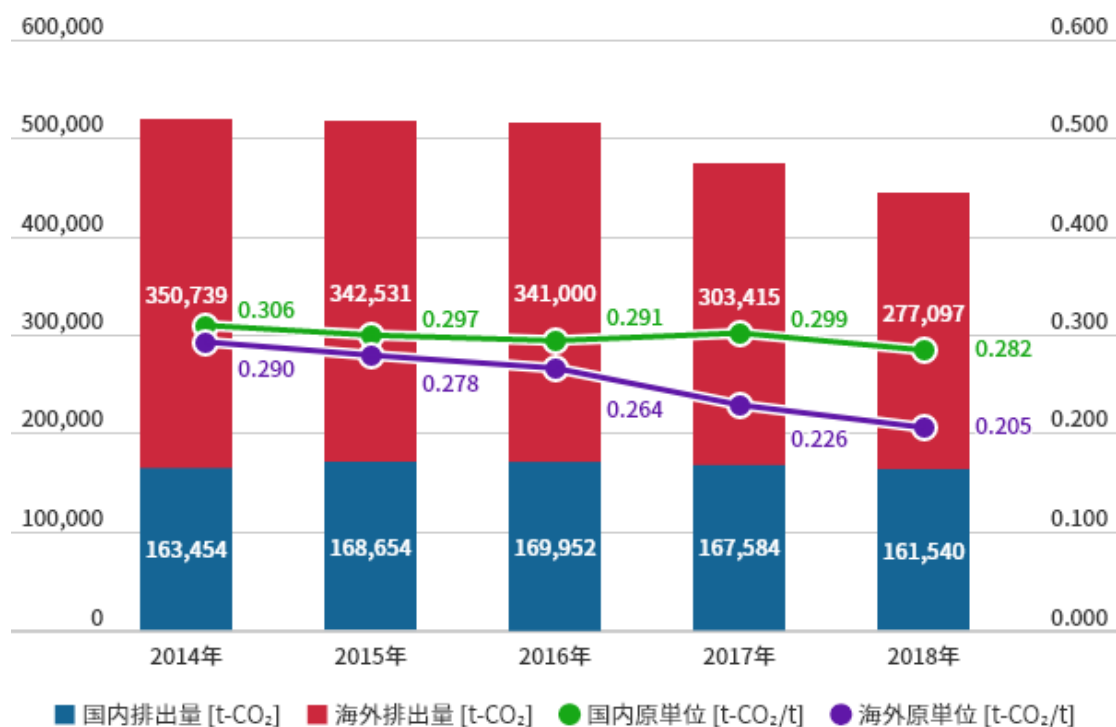
2018年度の当社グループの回答は、CDPのWEBサイトよりご参照頂けます。（日本語のみ）

▶ <https://www.cdp.net/ja> 

* 参照にはCDPへのアカウント登録が必要です。

温室効果ガス排出量

エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移



エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移



不二製油グループ Scope-1、2エネルギー使用量（CO₂排出量）

* Scope 1 および2での全CO₂排出量の70%以上において第三者検証を得ています。

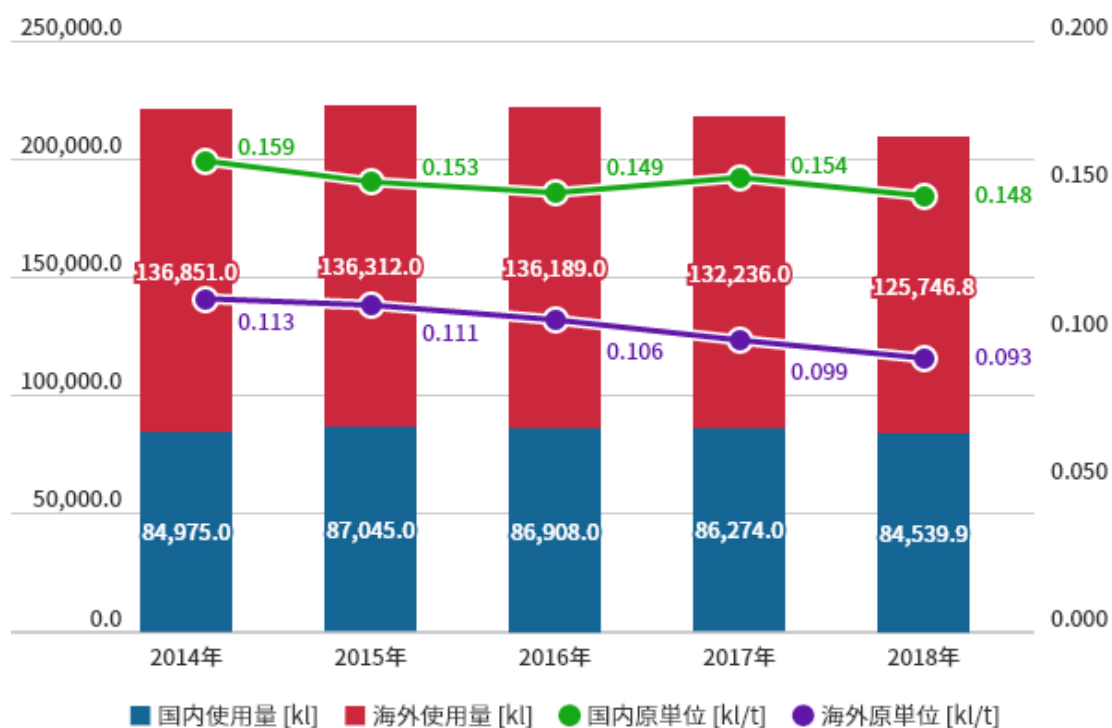
CO₂排出係数の出典

	国内	海外
燃料	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」 北米：US EPA

	国内	海外
電気	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」 サプライヤー別の係数	IEA「CO ₂ Emission from Fuel Combustion」 による国別の排出係数 北米：US EPA

エネルギー消費量

エネルギー使用量（原油換算）と原単位推移



燃料消費量

2018年

(単位：kl)

	軽油	重油	LPG	LNG	石炭	都市ガス	再生可能エネルギー
国内	0	960	908	573	0	65,343	12
海外	511	81	896	32,371	11,042	5,006	26
合計	511	1,041	1,804	32,944	11,042	70,349	38

総電力消費量

2018年

(単位：MWh)

	総電力量	自社で生産した電力量
国内	168,166	108,769
海外	192,321	0
合計	360,487	108,769

サステナビリティ

水使用量の削減

CONTENTS LIST

[▼ 考え方](#) [▼ 目標](#) [▼ 進捗](#) [▼ 具体的な取り組み](#) [▼ データ](#)

考え方

不二製油グループでは当社製品の原料として調達する農作物の生産や製造行程での蒸気の使用等において、水を使用しています。

社会の一員として、限りある水資源を持続的に使用するために、水使用量の削減活動をすすめています。

目標

2030年に原単位で20%削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループの水使用量の削減

目標	実績	達成率
2030年に原単位で20%削減	14.1%削減	71%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループ会社の水使用量は2,555千m³となり、前年度比94.2%と減少しました。原単位は前年度比92.7%と減少しました。排水量は1,926千m³となり、前年度比97.8%と減少しました。海外グループ会社では水使用量は2,163千m³となり、前年度比90.4%と減少しました。原単位は前年度比89.6%と減少しました。排水量は1,037千m³となり、前年度比92.9%と減少しました。

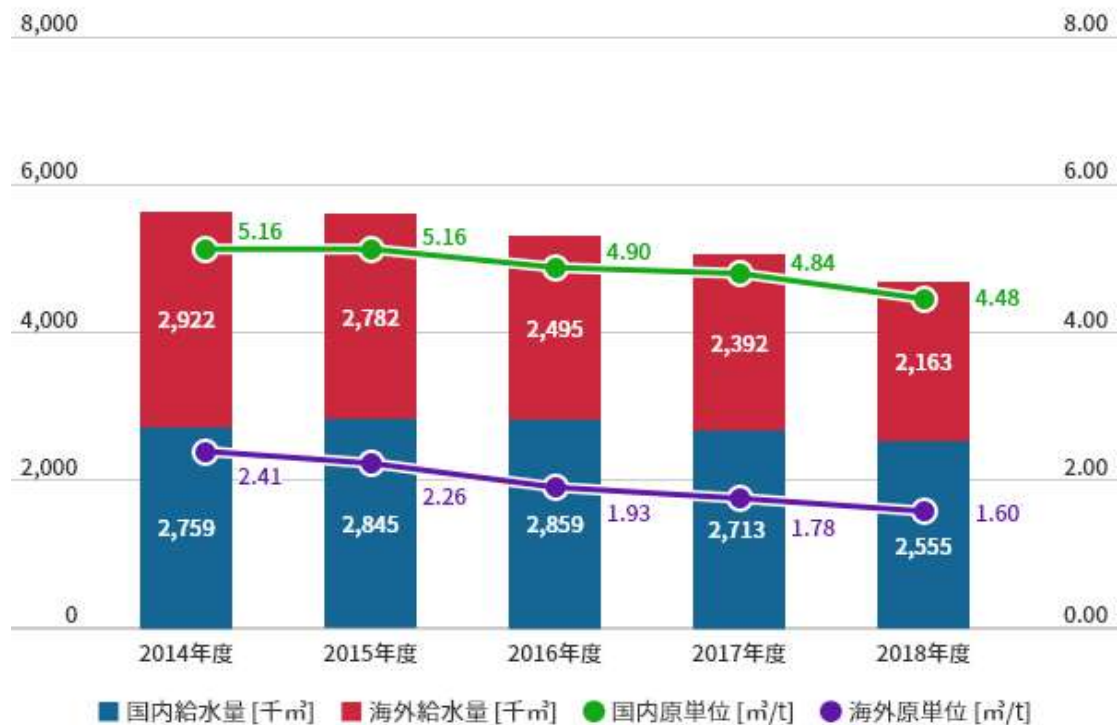
主な要因は、吉林不二蛋白有限公司（中国）の譲渡に伴い、2018年8月に生産活動を終了したことです。

具体的な取り組み

■ 水資源不足が危惧される事業地域での取り組み

不二製油グループでは、水資源不足が危惧される事業地域において、給水量・使用量を低減するための取り組みを行っています。例えば、中国の一部のグループ会社においては、操業地域の水資源不足が危惧されることから、雨水を貯蔵するためのタンクを設置しました。給水量の低減とともに、水資源枯渇時の事業継続という観点から効果が期待されています。

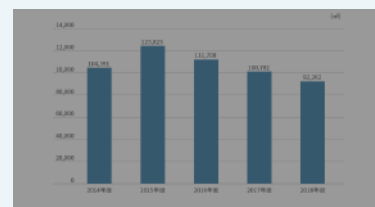
年間給水量と原単位推移



年間給水量と原単位推移



年間排水量と原単位推移



不二製油（株）阪南事業所における水再生利用量

サステナビリティ

廃棄物の削減

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 食品リサイクルの取り組み
- ④ データ

考え方

製造業として、廃棄物の削減に取り組むことは事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、CO2の排出量削減や水の使用削減等、環境保全全般に渡り寄与すると考えています。また、食品製造業として、食品廃棄削減に努めることが重要であると考え、賞味期限の延長や食品廃棄物のリサイクルを推進しています。

目標

2030年に原単位で10%削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループの廃棄物量の削減

目標	実績	達成率
2030年に原単位で10%削減	1%増加	0%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループの再資源化率

目標	実績	結果
2030年まで99.8%以上を維持	99.33%	未達成

国内グループ会社では、2018年度の廃棄物量は19,742トンとなり、前年度比106.5%と増加しました。廃棄物原単位は前年度比104.9%と増加しました。大阪北部地震の影響による製品廃棄や台風21号の影響によるタンク断熱材の落下等により廃棄物量が増加しました。海外グループ会社では2018年度の廃棄物量は23,222トンとなり、前年度比84.4%と減少しました。廃棄物原単位は前年度比83.7%と減少しました。

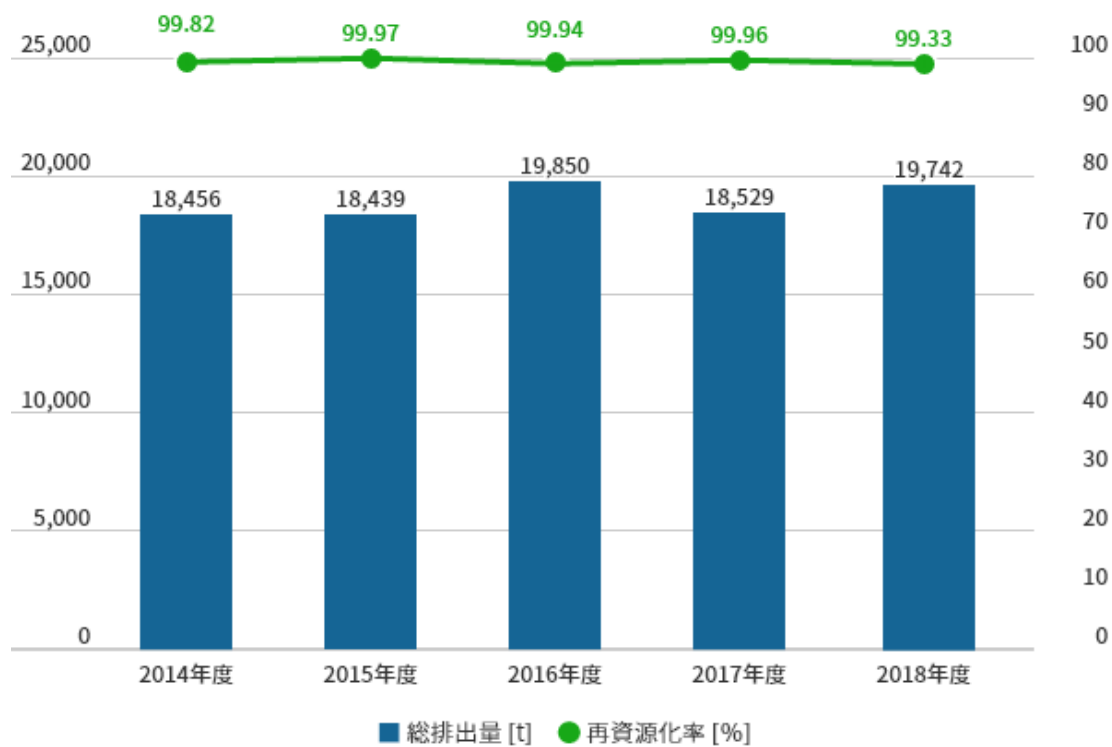
食品リサイクルの取り組み

国内グループ会社では「食品リサイクル法」に基づき、食品廃棄物の再利用に取り組んでいます。国内グループ会社での食品廃棄物の発生量は、2018年度は約32,332トンとなり、前年度に比べ約605トン減少しました。リサイクル率は昨年より2ポイント減少し97.5%となっています。これは、大阪北部地震において倉庫が被災し、一部製品の廃棄が発生した等の影響によります。

同法が食品製造業界に対して設けている目標は「食品循環資源の再生利用等（食品リサイクル）の実施率85%以上」ですが、不二製油グループでは目標設定当初の2007年度から97.3%以上の高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。この水準を今後も維持すべく、取り組みを続けていきます。

廃棄物排出量（食品及びその他廃棄物）

国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率



国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率



海外グループ廃棄物総排出量と原単位

サステナビリティ

包装材の削減

CONTENTS LIST

④ 包装材の環境負荷低減に向けた取り組み

包装材の環境負荷低減に向けた取り組み

商品の容器包装には、お客様のお手元に安全・安心な状態で届き、「商品の品質を守る」という大切な役割があります。しかし、お客様のご使用後には多くが廃棄物になるのも事実です。

不二製油（株）では、容器包装の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を基本的な考え方として推進しています。中でもリデュースに向けた取り組みを強化しています。例えば、一部製品の包装にプラスチックを使用していますが、プラスチックの使用については、薄膜化による使用量削減を図っています。また、段ボールケースを封函する樹脂系テープから紙製のクラフトテープへの切り替えも推進中です。この他にも、小型容器からリユース可能な大容量容器へと切り替えて使用するなど、さまざまな施策を推進しています。今後も、包装材の削減・見直しを図ることで、生産・輸送工程における環境負荷低減に積極的に取り組んでいきます。

サステナビリティ

生物多様性

CONTENTS LIST

- ④ 事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響
- ④ 生物多様性に関する取り組み

事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響

不二製油グループは、食品製造業である特性上、原材料調達や生産活動が生物多様性に影響を及ぼし得ることを認識しています。具体的には原材料（農作物）の生産地による生物多様性の減少や、生産活動の結果排出される水などが操業地域の生物多様性に影響を与える可能性があります。これらの点を認識し、生物多様性に及ぼし得る負の影響を低減することに努めています。

生物多様性に関する取り組み

生物多様性に配慮した調達

農作物を基幹原料としている不二製油グループは、生物多様性の保全のための取り組みを積極的に推進するべきと考えています。農地の開拓による生物多様性の損失が問題とされているパームに関しては、「責任あるパーム油調達方針」において森林破壊ゼロの調達を目指すことを宣言しています。搾油工場までのトレーサビリティ追求やサプライヤーへのエンゲージメントを通して、リスクの把握と低減に努めています。また、パーム小規模農家への教育支援プロジェクトでは、豊かな生物多様性があるマレーシアのサバ州・キナバタンガン地域の小規模農家の生産性を改善することで、農地開拓による森林破壊や化学薬品による河川汚染を防止し、生物多様性の保全に寄与しています。

「責任あるパーム調達方針」と小規模パーム農家への支援活動については「サステナブル調達」をご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/sustainable/>